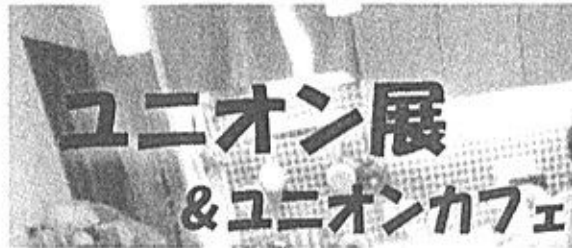


2018年1月15日 発行

2018年冬号

<第41号>

編集・発行／社会福祉法人ワークスユニオン 代表／池田直樹 〒551-0001 大阪市大正区三軒家西1丁目17-18 TEL06(6556)0881



退院後のよてい

ぼくは病気で5月から11月まで5回入院してきます。退院して元気になったら、コテキのOB会に行きたいと思っっている。OB会の忘年会やりたい。ユニオンの忘年会も行きたいけど、もっとおとなっぽい忘年会をやりたい。子供っぽいのはいらんわい。

来年は、ふたみうら温泉に行きゆつくりつかり、おいしいカキを食べて、次の日は釣りと映画を見ようと思っっている。和では、ミニヨソクのパラモデルを作りたいしとくださんとこいつりにも行きたい。どうとんぼりのつりぼりはつれないからいらん。

サンリットに戻ってからはまたお茶会をしたい。お茶会のふんいきが好きや。5月から入院しているしもう入院あきたわ。帰りたい。

松井 治雄 遺筆

第3回ユニオン展を終えて

―ワークスユニオンの創作活動のこれから―

【ユニオン展について】

第3回ユニオン展を谷町六丁目の「路地カフェ」にて、9月11日〜22日に開催しました。

初回のユニオン展では、生活介護事業所「和」「匠」の作品を中心にして展示を行い、昨年度からは他事業所にも作品を募って集まった物を展示しました。

今年度はパステルアートの講師が多忙のため、創作活動に来ていただくことが出来ずに作品作りがストップしていたこともあり、ユニオン展に向けてすべて新たに作品を作っていくことになりました。

これまでのユニオン展がそうだったように、テーマがあった方が良いのではないかとということで、テーマを「生きる」としました。しかし、実際に取り組んで

くれる人もいました。しかし、場所に限りがあったて、すべての作品を展示することは出来ません。

みると、自ら何かを作る機会が普段ほとんどない利用者さんに対して、提案するべき職員の方が「『生きる』というテーマの作品とは

…？」と考え込んでしまうこともありました。そんな違和感を覚えながらも、ユニオン展担当以外の職員も巻き込んで、作品集めを行いました。

利用者さんの中には、一人で何点も作って出してくる人もいれば、事業所の何名かで合作の物を出して

それに気づいた時、準備の段階で「きちんとした作品に見えるか?」「どうしたら作品展としてまとまるか?」と考えていた頭を、バーン!と何かで殴られたような衝撃がありました。

難しいことを考えず、テーマに捉われず、「利用者さん一人ひとりが自分を表現する、自分が楽しめる作品を作れば良いのだ。それが利用者さんの自己表現になり、利用者さんを理解すること

に繋がりが、周囲の人たちが認めるというサイクルの中で、利用者さんにとってもより良い生活になるのだ。」そう思い至れたのは、今年度の行事担当としてユニオン展と向き合い、ダブデ

イビ・デザインの格様をはじめ、外部の方からも助言をいただき、改めて創作活動を通して「支援」を考えることが出来たからだと思います。この気づきを、来年度以降のユニオン展にも繋げていきたいと思っております。

(原)

【創作活動について】

創作活動について私の原点となるものは、重度の自閉症の方を対象に創作活動を行っていた施設との出会いです。

創作活動と同時に、活発に就労支援をしていたことを不思議に思い、施設長にそのことを尋ねると「アトで自分を表現できるようにすると、何故か仕事も自然とできるようなるんですよ。」と言われたことに衝撃を受けました。

以来、自分を表現すること、作り出した作品を認められることが、支援者との関わりを深め、その方の働く意欲につながり、その方の生きることにまでつながると感じています。

最近では、障がいを持つ方が作る作品に注目が集まり、一昔前と比べて、アート展などで賞を目指す機会も増えていきます。また、障がいを持つ方の作品を専門に取り入れ、商品化にまでつなげていく企業もぼつぼつ

と増えていると聞きますし、他の生活介護事業所では、創作活動を中心に取り組む事業所も増えつつあります。

そんな時流の中で、ワークスユニオンの生活介護事業所は、現在の時点では、創作活動を中心に、とは考えていません。それは、ワークスユニオンの利用者さんは、企業就労を目指し、企業の中で働いた経歴をもつ方が多く、現在もお「働く」ことに喜びを感じている方が多いからです。

しかし、創作活動を始めることで、利用者さんのこれまでと違った良さを発見できたり、内なるものを表現して「その人らしさ」を

感じる場面が増えてきたり

していることも事実です。そして、支援者が利用者さんの表現を引き出した時の喜びと共感、計り知れないものがあります。

「その人らしさ」を利用者が表現できるようになること、それを支援者が発見すること、それは、一朝一夕でできるものではありません。日々利用者さんが作り出すものに寄り添い、利用者さんと共に深く共感することで出来るものです。これは、まさに私たちの支援の基本とも言えます。

「働く」ことが中心であっても、利用者さんが何気なく発する表現に日々アンテナを張り、寄り添い、創作活動を通じて、内なるものを新たに発見していきたいと思います。(坂田)



ユニオンカフェ開催!

ユニオン展の期間中の土曜日に、「ユニオンカフェ」を一日限定でオープンしました。この企画は、南石所

長が「カフェをするのが夢だった。」と話していたことがきっかけで、所長に一日店長になってもらい、ユニオン展を観に来た人にカフェメニューを提供しようというので動き出しました。初めてのカフェ企画は、とっても大変!メニューを考えて、アンケートをとって、材料の量を計算して、道具の確認をして…準備は

尽きません。

所長が試作品のパイを作っていた時にたまたま横を通りかかると、「食べていきなよ。」と試食を勧められました。そのアップルパイは酸っぱくて、「もつと甘い方が美味しくないですか?」と言うと、「だって僕、甘いものは苦手なんだもん。」と所長。「利用者さんは甘い方

が好きなんで本番は甘くしましょう!」と説得して、当日は無事、甘くて美味しいアップルパイが利用者さんたちの口に運ばれることとなりました。

当日は利用者さん数名にカフェのお手伝いをしてもらうことになり、希望者を募ったところ、たくさん応募がありました。抽選の際、普段、何かあるとすぐにパニックになってしまうAさんが選ばれました。「大丈夫かな?初めてのこと、しんどくならないかな?」と職員たちは心配していたのですが、Aさんの担当職員が「大丈夫です。彼女にとって良い経験になると思うし、私も全力でサポートするのでやらせてあげてください!」と、太鼓判を押してくれました。

その職員のお陰もあって、Aさんは大きな不安を感じることもなく当日を迎えられたようでした。カフェに集合するなり、お手伝いを選ばれた利用者さんたちはAさんも含めてやる気満々!保護者さんや利用者さん、余暇活動からもたくさんの方が来てくれて、お昼時は特に大賑わいでした。

お客さんの注文を聞いて、お料理を運んで、大忙しだったのですが、忙しいほど一生懸命にイキイキとしているお手伝いさんたちの姿を見て、とても頼もしく感じました。

Bさんのご両親は揃ってカフェに来てくださったのですが、彼女がお手伝いをしている様子を見て、「娘のこんな笑顔は久しぶりに見ました。」と嬉しそうにされていて、私まで嬉しく思いました。

準備に追われる日々でしたが、当日は好評&充実の一日になりました。(原)

ユニオンの支援スタンス

あなたの人生 「主役」は、あくまであなた自身

措置制度の四十年前、私が入職した入所施設では、障害を「克服すべきもの」と捉え、「治療教育」と言う御旗の下に障害のある人にそれを克服することを求める「指導」を行っていた。

時が流れて平成十五年の「支援費制度」の導入により、障がい者福祉は、障がいのある方の「自己決定」に基づきサービスの利用ができる「契約」の時代へと変わり、それに伴い「障害者虐待防止法」、「障害者総合支援法」の施行、「障害者雇用促進法」の改正、「障害者の権利に関する条約」の発効、「障害者差別解消法」の施行など障がい者福祉を取り巻く法制度の整備がなされ、障がいのある人の生活はそれぞれの願いに寄り添った暮らし

が実現され、その人らしい人生が送れるようになったと思っっている。

保護者の皆さんにも職員にも「指導」から、ご本人の「自己決定」を大切にしながら、ご本人を取り巻く環境の改善を目指す支援が重要だと話してきた。

保護者の皆さんにはまだまだ不満も有ると思うが、職員やヘルパーたちの支援を受けてワークスユニオンの利用者たちは、それぞれの日中支援の場所で一生懸命に働き、色々な活動に参加し、四ヶ所のマンションで、自分らしく自由な暮らしを享受してくれているの

と信じている。

「障害者虐待防止法」の制定後、障がい福祉事業所にも、国は、よりよい支援の実

現を目指して「虐待防止研修」も義務付けている。ワークスユニオンも加盟している「大阪市障がい者施設連絡協議会」で加盟事業所の虐待問題に関するアンケート調査が行なわれた。その報告によると、多数の「虐待事案」並びに「不適切支援」の存在が報告されており、私自身この報告書を読んで、その実態に愕然とすると共に気持が滅入ってしまった。

もし職員の中に利用者にと「支援をしてあげている」の上から目線の気持を抱いているものがあるとしたら断固否定する。

私たちは、仕事として「支援をさせて貰っている」ことを絶対忘れてはならない。職員としての仕事の内容は、ひとり一人の利用者の「生きにくさ」を軽減し、利用者によりよい生活をして貰うこと。

支援者として、利用者にと「こうあってほしい」との思いを持つことは大切だが、利用者のかげがえの無い人生なのだから、ご本人の意思や願いを尊重しなければ本末転倒だ。

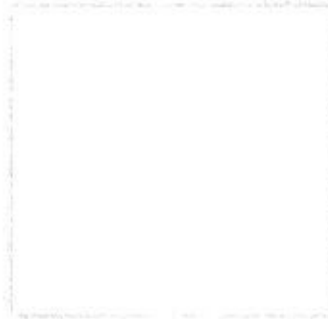
それぞれのチームで議論を重ね、支援力を高めていかなければならない。私たち職員にとっては、利用者にと寄り添った支援を心がけることが、最優先なのだが、職員の気持に余裕の無い時などに発する不用意な発言が、利用者の方にダメージを与えることはありうると危惧する。職員諸君「心穏やかに」仕事と向き合う努力をしよう。

保護者の皆さんは、私たち職員に敬意を表してか、「先生」と呼ばれることが多いが、その必要は無く「さん」付けでお願いしたい。それは、職員は「指導」を行なう存在ではなく支援する側に徹したいからだ。

皆さんに、お子さんを今まで育ててきたとの想いの強いことは承知しているが、それゆえ親の想いを前面に出し、一人の大人としての本人の「意思決定」を阻害してしまうことの無いようにお願いしたい。(南石)

松井 治雄さんへ

平成29年11月23日、サンリットと和を利用されていた松井さんが逝去されました。67歳で旅立たれてしまつた松井さんを偲んで、ここに、感謝の想いを残したいと思います。



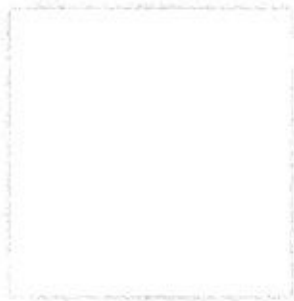
▼松井さんが「いけじま」に働いていて、私が就職していて私が就職をダメになつて、私が藤原さんと一緒に「いけじま」に行つてそこで、松井さんと一緒に「いけじま」で働いて、「三先公園」で缶コーヒを二人が買って公園で飲んでいたこともあつて、それから仲良くよく話をしたりしていました。それから私が松井さんのことを好きになつて、それやつたら藤原さんが、

結婚したらといつて一緒に結婚して、それからうまくいかないこともあつたけど、松井さんと一緒に「なんば」や「心斎橋」に行つたりしましたね。それからいつも「誕生日や」と言つたら、一緒にプレゼントを買いに行つたりしましたね。もうクリスマスプレゼントも一緒に買いに行くこともできなくなつてしまいましたね。とてもさびしくなつてしまいました。

佐藤 歩

▼いつも冗談でいじつてくれてありがとう。もつと遊びたかつたです。プラモデルの作り方を教えてほしかったです。

多和田 剛



▼松井さんとは長い付き合いで、自分が太陽商会、集の時もいっしょで、和に松井さんが来ると思わなかつた。14年くらいの長い付き合いでなんもけんかもせず、なかよくしゃべりながら作業してました。先週、亡くなつたから会いに行つたけど目をつむつてるだけで、「もう起きるよー」といいそうやった。死んでしまつたけどみんなをみまもつておうえんしてね。

山田 美恵

▼入院していたけど、元気そうだった。松井さんと二人でなかつとうげい教室で土曜日にお皿とコップとおちゃわんを作りました。松井さんのことすきです。

三宅 敦

▼松井さんとは、色々あつたけど、今はなにもないから、よきせんばいとしてよかつた。しずかに、ゆつくりとねむつてください。

池田 憲治

▼松井さんは几帳面な性格でいつもお部屋は綺麗に片付き、趣味のミニ四駆のプラモデルの箱もお部屋に綺麗に収納されていました。今年半分を闘病に費やされ、思うようにミニ四駆の作成ができませんでした。今頃天国で思う存分、ミニ四駆のプラモデル作り、クロスワードパズルを楽しまれていると思います。少しの時間でしたが一緒に過ごせて楽しかったです。心よりにご冥福をお祈りします。そしてありがとうございました。

濱野 哲行

▼明るくて責任感が強く仕事好き、そして中途半端な事は嫌いで白黒させたい性格でした。今でも「何で



君はそういう事を言うんだ。ダメじゃないか！」と山川さんの物まねや、冗談で良く言っていた「まじつすか？マジックリン マジックジョンソン」が今でも和で飛び交っている感じがして心寂しいです。入院が長くてしんどかつたと思うので天国で、旨い魚を釣つて食べ、得意のカラオケを歌いながら、酒を飲んでゆつくりしてください。「ずーっとまっとなねん！」と話し、心待ちにしていた機関紙一面の利用者コラムに載ることできましたよ。松井さん！御生前の姿を偲び哀悼の意を表します。

島村 裕治

ふひひひ

11月14日、「UNION
★STARS」は、今年もダ
ンス発表会に参加しました。

この一年は、講師の瀬口
先生と一緒にメンバー一
人目標を立てました。チ
ームワークを取る、手と足
をスムーズに使う、踊る時
に下を向かない、などの目
標を掲げました。

その目標を意識して一年
間練習を頑張り、チーム全
体のレベルが上がりました。
本番は、今年の六月に亡
くなったメンバーのケン
(奥村さん)の分も頑張り
うと、いつも以上にメンバ
ーも気持ちを込めて踊りま
した。きつと並言ひは、ケンも
みんなと一緒に踊りに来て
いたと思います。

今回は、ステージがフラ
ットで客席との距離が近く、
昨年のような高さのあるス
テージよりも、緊張感は高
かったと思います。

振り付けの中には、ケン
のトレッドマークの赤いダ

ウンジャケットを使った、
瀬口先生の演出があり、踊
っている側もとても胸が熱
くなりました。

観に来ていただいた方か
らは、「みんな頑張っていた
が、特に、皆と合わせて踊る
事が苦手な利用者さんが、
以前より合わせて踊れてい
て良かった。」と、嬉しい感
想をもらいました。

発表会の打ち上げは、メ
ンバーが選んだ寿司の食べ
放題のお店に行き、大いに
盛り上がりました。

来年は、今年の課題を検
討しながら、新たな目標を
決め、次の発表会に向けて
頑張ります。

(横田)

職員紹介

草野 洋子 (をーワークス専
務)

事務や販売員・訪問介護
事業所のサービスマン提供責任
者などの経験を経て、ユニ
オンに入職し約1年。

仕事はつなぎ服と安全靴
を着用し、「世間につなぎ服
の良さを伝えたい」と奮闘
しています。最近はおルト
作業も担当し、10月にはリ
フト講習を受講し、軽快に
リフトを乗りこなしている
彼女。利用者さんが「工賃が
上がった」と喜ぶ姿を見る
のが嬉しいそうです。

彼女の趣味は睡眠とネッ
ト動画の鑑賞。よく観るの

は海外ドラマで、観ながら
寝ることもあるとか。集で
の姿とは違い、まったりし
た時間も好きだと語ってい
ました。

松岡 ゆり子 (をーワークス専
務)

以前は高齢者施設で働い
ており、福祉関係の仲間と
お酒を飲みながら支援の話
を熱く語らう時間が、とて
も好きと話します。

その仲間の一人に視覚障
がいのある方がおり、その
方から事業所を立ち上げ、
運営していく過程の話を聞
く内に、障がい者支援に惹
かれました。

その後転職の為ユニオン
に見学に来た時に「ここ
だ！ここで働きたい！」と
思い入職を決めました。

家では子供に勧められて
「断捨離」を実行。ゴミ袋
10個分の服を捨てる決断
はなかなか難しく、かなり
時間がかかったそうで、押
しの一手は「絶対捨てる」だ
ったそうです。

(高橋・助野)

編集後記

▼毎年ユニオン展やダンス
発表会などを観る度に、「彼
らを文化の低いところに身
を置かせてはいけない」と
いう山川さんの言葉を思い
出す。▼昔、事業所を担当し
ていた頃、時折作業の合間
に皆で絵を描いたりしてい
た。利用者さんの予想外の
色使いや発想に驚かされる
ことが度々あったが、当時
は作業に手一杯で、講師を
呼んだり本格的に時間をと
ることはできなかった。▼
しかし現在、作業をしなが
らも描画、書道、料理、ダ
ンスなど様々なことを取り入
れている様子を見ると、事
業所の在り方も徐々に変化
しているのだと実感する。
▼生活に必要なことではな
くても色々な体験を増やし
ていくことは、より豊かな
生活につながっていく。そ
んな機会や時間を利用者の
皆さんに提供し一緒に体験
できることは、職員にとつ
ても大きな喜びである。(N)